

としょかんのほんだな

～1・2年生 おすすめの本のリスト 2021～

歌がにがてな人魚

ルイス・スロボドキン 作 小宮 由 訳 瑞雲舎 933-ス

人魚にんぎょの学校がっこうのせいとシンシアは、どのじゅぎょうも、とてもじょうずにこなしました。ただ、歌うたがにがてで、歌うたのじゅぎょうのときは、いわのいちばんした下にすわってだまっていました。シンシアは先生せんせいに、ちゃんとうたうようにいわれ、できるだけおさえた声こえでうたいます。でも、とてもひどかったので、先生せんせいはシンシアにやめるようにいいました。

あたまをつかった小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル 作 松岡 享子 訳 福音館書店 933-ニ

小さなおばあさんちいは、まちにやってくるサーカスを、なんとしてもみにいきたいとおもいました。でも、きっぷかを買うお金かねがないので、はやおきをして、サーカスのどうぶつたちが、まちのひろばはいに入ってくるころをみにいくことにしました。そこで、おばあさんはあたまをつかって、どうしたらサーカスのくるじかんにまにあうようにおきられるか、かんがえます。

きょうりゅうのかいかた

くさの だいすけ ぶん やぶうち まさゆき え 岩波書店 E-ヤ

どうぶつずきのきょうだい、まきととめぐみは、いんこやきんぎょなどをかっています。でも、ふたりは、ほんとうはいぬかうさぎをかいたいとおもっていました。「おおきいどうぶつをかわせて」とおとうさんにたのんでいると、あるひ、おとうさんが、きょうりゅうのこどもをもらってきました。

あひるのピンのぼうけん

マージョリー・フラック ぶん クルト・ヴィーゼ え まさき るりこ やく 瑞雲舎 E-ビ

こどものあひるピンは、たくさんのかぞくといっしょに、揚子江ようすこうにうかぶふねにすんでいます。ピンたちは、ふねから小さい橋はしをわたって、岸辺きしべで一日いちにちをすごし、夕方ゆうがた、ふねのご主人しゅじんのよび声こえがきこえるとおおいそぎでもどります。というのは、いちばんさいごに橋はしをわたるあひるは、おしりをむちでぶたれるからです。ところがある日ひ、ピンは橋はしをわたるいちばんさいごのあひるになってしまいます。

そんなとき なんていう？

セシル・ジョスリン 文 モーリス・センダック 絵 たにかわ しゅんたろう 訳
岩波書店 E-セ

ひとりのしんしが、みんなにあかちゃんぞうをあげていて、きみもほしいとおもっている。しんしがきみに、あかちゃんぞうをしょうかいした。そんなとき、なんていう？おそろしいりゆうがあらわれて、けむりをふきかけたとき、ゆうかなきしがかけつけて、りゆうのくびをちよんぎった。そんなとき、なんていう？きみがぼくじょうをみまわっていると、とつぜんせなかからけんじゅうをつきつけられた。そんなとき、なんていう？

まるごとごくり！

シンシア・ジェイムソン 再話 小宮 由 やく
大日本図書 983-マ

ある日、おばあさんは土で小さな男の子をつくって、それをやいて土ぐうにして、じぶんたちの子どもにしようといいました。そこで、おじいさんは、土をこね小さな男の子のかたちにし、かまに入れてやきました。かまから出された男の子の土ぐうはテーブルにおかれると、立ち上がり、しゃべり出しました。

まのいいりょうし

瀬田 貞二 再話 赤羽 末吉 画 福音館書店 E-ア

あるあさ、りょうしはむすこのななつのいわいのために、なにかとってこようとしました。そこで、てっぽうをおろそうとすると、てっぽうがおちて、いしうすにぶつかり、つつがまがってしまいました。むすこは、きょうはげんがわるいからと、ひきとめたけれど、りょうしはうすにあたればこそ、おおあたり、といてでかけていきます。

なんでもあらう

鎌田 歩 作 福音館書店 E-カ

けんちゃんがよごれた自転車じてんしゃにのっていると、ヘルメットをかぶったおじさんが、きたないままだとあぶないといって、ゴシゴシあらってくれました。おじさんは安全あんぜんのために、なんでもしつかりあらっているといいます。そして、おじさんは、道路どうろや電車でんしゃ、飛行機ひこうきなど、いろいろなものをあらっているところにつれていってくれます。

ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく みつよし なつや やく ほるぷ出版 Eーバ

あるひ、ガンピーさんはふねにのってでかけました。すると、こどもたちが「いっしょにつれてって」というので、ガンピーさんは「いいとも」といいました。すると、うさぎ、ねこ、いぬ、ぶた、ひつじ、にわとり、こうし、やぎが、つぎつぎにやってきて、ふねにのりたがり、みんなのせてもらいます。

マフィンおばさんのぱんや

竹林 亜紀 さく 河本 祥子 え 福音館書店 Eーコ

アデルジャンジャンのまちのひとたちは、マフィンおばさんのやくぱんほどおいしいぱんを、たべたことはありませんでした。ぱんやにはアノダッテというおとこのこがいて、まいにちマフィンおばさんのぱんやのてつだいをしていました。ぱんづくりをおぼえて、もっとマフィンおばさんをてつだおうとおもったアノダッテは、よる、そっとちかしつにおりていきます。